



福岡県議会議員(福岡市博多区)

堤 かなめ

県議
会報

2015年新春号

新年あけまして おめでとうございます

早いもので任期終了まであと3ヶ月となりました。今年は、再び挑戦の年となります。県民生活の向上のため全力を尽くします。本年もどうぞ宜しくお願いいたします。

2015年 新春

福岡県議会議員 堤 かなめ



12月議会でも一般質問しました。

2014年度 12月議会報告



わが会派提案の 福岡県危険ドラッグ条例制定

12月県議会は12月1日から18日までの日程で開催され、わが会派が提案し県議会の各派の代表による調整会議で協議が進められてきた「福岡県危険ドラッグ条例」(福岡県薬物の濫用防止に関する条例)、また県議選の選挙広報の発行は各都道府県議会が条例で定めることになっていますが、そのための条例改正案など24議案を原案どおり可決し閉会しました。

堤かなめの
一般質問

アジア・世界に開かれた安全・安心の基盤整備について

小川知事は、これまで、「県民幸福度日本一」の福岡県をめざし、アジアの活力を取り込みアジアと共に発展することと同時に、安全で安心できる社会づくりに取り組んでこられました。実際に、アジア諸国の経済成長にともない、海外からの観光客やビジネス客が増加しています。

福岡県を訪れる外国人の数は、平成25年には約94万人と過去最高となりました。また、県内の留学生の数は、平成24年に約9千人と、この10年間で約4千人増加するとともに、外国人居住者の数は平成24年に5万3千人を超え、この10年間で約1万1千人程度増加しました。

観光振興については、本県議会の議員を中心として九州の政財界の有志により結成された九州の自

立を考える会が、本年10月6日に公表した「九州の成長戦略に係る政策提言」において、5つの柱からなる政策提言の第1の柱として挙げられています。また、今議会においても、産業の発展や地域の活性化など、観光振興の重要性についての指摘がなされており、さらに今後も、本県を訪れる外国人の増加が見込まれます。

その一方、近年、全国各地で大雨や台風などによる大きな被害が発生しており、本県においても、いつなんどき大規模な災害が起きてもおかしくありません。また、火事、急な病気、交通事故、犯罪などの危険も日常生活には潜んでいます。

このような中、消防や警察が、外国人の観光客やビジネス客、留学生など日本語によるコミュニケー

ションが困難な方からの緊急の通報や相談に、迅速かつ的確に対応できるようにすることは、アジアそして世界に開かれた安心・安全の基盤整備として重要と考えます。

1. 消防における多言語対応

【質 問】

●地域の安全・安心を支える身近な存在として、消火や救急業務を行う消防があげられますが、県内消防本部が日本語によるコミュニケーションが困難な方から119番通報を受けた場合の多言語による対応について、どのような状況にありますでしょうか。

●県外の消防本部においては、119番通報時の多言語による対応として、民間の電話通訳サービスを活用している事例があると聞きましたが、このような先進事例について、知事の認識をお聞かせください。



●2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催などにより、県内各地にさらに様々な国籍、様々な母語の外国人が来訪することが見込まれます。国においては、119番通報時の多言語による対応について、スマートフォンの活用の検討等が始められたと聞いておりますが、県として、国や消防本部と連携し、今後、119番通報時の多言語による対応について、どのような取組みを行っていくか、知事のお考えをお聞かせください。

【知事の答弁】

県内25消防本部のうち、日本語によるコミュニケーションが困難な方からの119番通報に、より適切に対応するため、対策を講じている本部は、本年11月現在、15本部ある。具体的には、通報者の言語に対応した音声案内を流す、司令員が外国語による応答マニュアルに従い通報の受け答えを行う、通報者、指令員及び国際交流協会の通訳によるなどにより対応している。

また、対策を講じていない10本部のうち、6つの本部において、現在、多言語対応の検討を行っており、残る4つの本部においても検討を行うよう促している。

他県では、通報を受けた



小川洋 福岡県知事

指令員が、24時間365日体制で5か国語に対応できる民間通訳業者に連絡し、3者通話をおこなっている事例がある。県としては、このような民間電話通訳サービスの活用は、緊急を要する救急事案や災害の発生時に、迅速かつ的確に119番通報に対応するための一つの方策であると考えている。

2020年に東京オリンピック・パラリンピックが開催されることもあり、本県を訪れる外国人の数は、今後、益々増加するものと見込んでいる。国では、スマートフォン等のアプリケーションを活用し、

①外国語の表示画面から伝達情報を選択し119番通報を行う実証実験、

②外国語で話しかけると即座に日本語に翻訳して音声出力する機能の救急分野への応用などについて、検討が行われている。

県としては、このような国の取組みや他自治体の先進事例について情報収集を行い、市町村や消防本部に提供してまいりたいと考えている。

2. 警察における多言語対応

よく言われることですが、たとえ現金の入った財布を落としても多くの場合落とし主のもとに戻ってくる国として、日本の正直で親切な国民性は、世界の人々から賞賛されています。また、地域に密着した警察の交番制度が、人々の安全・安心のための優れたシステムとして世界的に注目されていることは周知のとおりです。

困ったとき、窮地に陥ったときに助けてもらったことは、だれしも一生忘れません。もちろん交通案内や観光情報の多言語化も重要ですが、命と財産を守る重要な役割をはたしている消防と防災の多言語化は、「おもてなし」の基本ではないでしょうか。

福岡県へのラグビーワールドカップ、東京オリンピック・パラリンピックの事前キャンプ地の誘致のためにも、安全・安心の基盤整備として消防や警察の多言語対応は優先事項であると考えます。

【質 問】

●日本語によるコミュニケーションが困難な方から、110番通報を受けた場合の多言語による対応について、どのような状況にありますでしょうか。

●日本語によるコミュニケーションが困難な方が、落とし物をしたり、道に迷ったり、事件に巻き込まれるなどして、交番に助けを求めた場合、現場での多言語による対応について、どのような状況にあるのでしょうか。

【警察本部長の答弁】



樋口真人 福岡県警本部長

日本語が話せない外国人からの110番通報への対応についてお答えします。日本語を話せない外国人から、110番通報を受けた場合は、まず、発信地を特定するシステムを活用して、直ちにパトカーや交番等の警察官を現場に派遣している。現場に派遣された警察官は、安全を確認し、事案に応じた対応をとっている。その上で、必要に応じて、警察本部の通訳センターと連携し、通訳人を介して3者間で通話を行うなど、外国人からの110番通報の対応に誤りが生じないように努めている。

交番において届出等を受けた場合は、英語、韓国語および中国語の3言語については、「落とし物をした」など、警察官に伝えたいことをイラストで示したボード、いわゆる「コミュニケーション支援ボード」を活用し、対応している。また、必要に応じて、警察本部の通訳センターに通訳を要請するなどして対応している。

今後も、外国人による緊急の通報や届出に対しては、速やか、かつ的確に対応していく。

12月定例会における会派の代表質問

1. 県政推進の基本姿勢について

- ①2014年度の税収見通しと財政改革推進プラン
- ②福岡・北九州両空港の一体的運営ビジョン
- ③原子力災害広域避難計画
- ④産業廃棄物行政の推進

2. 男女が共に働きやすい社会づくり

3. 教育問題について

- ①35人以下学級の維持と拡大
- ②小中学校の統廃合問題

4. 警察問題について

- ①性犯罪の防止と性暴力被害者支援の拡充

5. その他県政一般について

※詳しくは、

HP(www.gikai.pref.fukuoka.lg.jp)をご覧ください。

民主党・県政クラブの提案により採択された意見書

- ヘイトスピーチ(憎悪表現)に反対し、その根絶のための法整備を求める意見書
- 「手話言語法(仮称)」の制定を求める意見書
- 奨学金の充実を求める意見書
- 平成26年産米の価格下落等に関する意見書 など

福岡県議会議員 堤 かなめ 活動報告



議員インターンの皆さんから

NPO法人ドットジェイピーが運営する「議員インターンシッププログラム」に賛同し、協力しています。このプログラムは、大学生が長期休暇の2ヶ月間、議員と行動を共にする事により、議員の仕事・議員の思い、政治と社会のつながりを知る体験学習です。

大学生の皆さんが、実社会について知り、社会へ貢献する意識を高め、20代・30代の若者の投票率の向上につながればと思っています。次のとおり、私と共に活動してくれた議員インターンの皆さんから身に余る感想をいただきました。

感想①

正直な気持ちを述べると、本インターンシップに参加する前は、議員の不祥事や政治の不透明さなどの負のイメージが先走っており、公共政策には関心があったものの、一方で関心の薄かった政治分野に携わる方々と実際に接することに不安もあった。

しかし、2ヶ月の活動を終えて、参加できて本当によかったと感じている。政策研究で取り組んだ「子どもの貧困」問題は、身近なようで、日々の生活では直接問題意識を感じにくいものであった。しかし、今回堤かなめ議員に同行した養護施設の訪問や勉強会を通して、この問題が非常に緊急性があり、長期的に判断しても取り組まなければならないと確信を持った。

そして多くの人から話を伺い、少しずつ知識を得るにつれ、今までの自分のように、報道などからの情報を受動的に、無関心で捉えていると、現在の政治が抱える課題や真に取り組みを要する問題の重要性を捉えることが難しいということに気づき、問題意識を持つようになった。わずか2ヶ月間ではあったが、自分の日本、そして世界の抱える諸課題に対する問題意識のあり方が大きく変わったと実感している。

感想②

私は堤かなめ議員が社会にある不公平をなくしたいという想いで活動されていると思います。

このように私が思ったのは、堤議員が女性に関する問題に対して、また、子供の貧困に対して様々な活動をされていたからです。堤議員が私たちを招待してくださるイベントはどれも、女性や障がい者、児童養護施設など社会

的に弱い立場にある人たちに関するものでした。どのイベントにおいても堤議員が関わっていらっしやっていて、どの人も堤議員のことをご存知でした。このことから、堤議員が直接的に人と交流されて、生の声を聞いていらっしやるということがよく分かりました。

また、きっと堤議員は私たちにこのような立場にある人たちのことを知ってほしいと思っていられっしやったのではないかと思いました。

インターンで堤議員の人格に触れ、私は人と人とのふれあいを大切にしていこうと思いました。相手の気持ちを理解することはできないかもしれないけど、ふれあうことで相手の気持ちを分かろうとすることはできるし、きっとその姿勢は相手にも届くと思います。

今後は一人一人との出会いを大事にしていきます。

感想③

堤かなめ議員は、気さくな方で、どんな時でも周囲を明るくさせてくださるような、いつも輝いてる方である。それは、2ヶ月間のインターンを通し、特に堤議員の基本姿勢である、『共に生き、支え合う社会』を構築する」上で非常に重要なことであると感じた。

堤議員は、インターン選考の段階より、女子の学生を受け入れるという条件で募集されていたことを後に知り、活動当初は不思議に思っていた。しかし、2ヶ月間経った今、その理由を心から実感することができる。堤議員は、「女性の活躍推進とそのための環境整備」、「教育の充実」、「DV、虐待の根絶」に精力的に取り組まれており、それらの問題に対して、一議員としてというよりもむしろ、一女性としての立場から常に活動されている印象を持った。

働く女性の数が3年ぶりに増加し過去最多であるように、男女共同参画社会の実現が急務である今日、特に政治の分野における、本国の女性の政治参加比率は世界的にも非常に少ない。私たちインターンを受け入れていただいたのは、このような、諸課題に取り組む問題意識から、今後の将来を担う世代である私たちにそれらを実態的に学ぶ機会を与えてくださったのだと思う。



インターンの皆さんと



堤かなめ プロフィール

太宰府小、牛頸小、大野南小、大野中卒 旧姓：吉田 要
筑紫丘高校卒(31回生・バスケット部主将)
九州大学卒(英文科)
1983 KDD国際電信電話(株)勤務
1993 九州大学大学院卒(社会学)
1993 九州国際大学 講師
1995 カロリンスカ研究所 客員研究員(スウェーデン)

1997 NPO法人アジア女性センター設立(女性と子どもの支援)
2000 NPO法人福岡ジェンダー研究所設立(男女共同参画の推進)
2001 九州国際大学 教授
2002 サリー・ローハンプトン大学 客員教授(イギリス)
2005 九州女子大学 教授
2010 参議院議員選挙(福岡選挙区) 176,149票獲得
2011 福岡県議会議員選挙(福岡市博多区選挙区) 初当選

堤かなめ事務所

〒812-0013 福岡市博多区博多駅東3-9-3 博多ニッコーハイツ701号 TEL:092-432-0101 FAX:092-432-0102

民主党・県政クラブ

〒812-8574 福岡市博多区東公園7-7県議会内 TEL:092-643-3804 FAX:092-622-6203